

気候関連開示サマリー（2024年6月）



企業の気候関連情報開示に対するモニタリング機能がTCFDからIFRSに引き継がれたため、従来のTCFD提言の枠組みに沿いつつ、IFRS®サステナビリティ開示基準S2号気候関連開示（以下、IFRS® S2）を参照して開示を一部更新しました。

気候関連のガバナンス

経営の監督を担う取締役会は、2023年に開催した取締役会のうち、4回の会議で気候関連を含むサステナビリティに関する議論を行いました。また、機関投資家とメディアに向けて[ESG説明会](#)を開催し、TCFDに基づいて行った対面市場ごとのシナリオ分析の結果や水素関連事業に関する取り組みについて説明しました。

執行側のサステナビリティ経営を担う会議体であるサステナビリティ委員会は、2023年に開催した全ての委員会で気候関連の議論を行いました。

また、2023年に再編した対面市場ごとのカンパニー制の下、顧客が気候変動に対してどのような課題を抱えているのかを気候関連シナリオ分析を通じて重要なリスクと機会をとらえ、中期経営計画E-Plan2025に反映させています。

気候関連を含む非財務目標に対する活動とその進捗状況を2023年に開催されたサステナビリティ委員会においてレビューしました。気候関連の戦略は、シナリオ分析を含め、各カンパニープレジデントの責任の下に遂行しています。

気候関連の戦略

荏原グループは、2030年にありたい姿の1つに“ESG経営の進化”を掲げています。ESG経営の進化に関わるテーマとして、気候関連のリスク・機会の分析とマネジメントをTCFD提言に基づいて行い、気候関連シナリオ分析の結果を2023年からスタートした[中期経営計画E-Plan2025](#)（2023年～2025年）に反映させました。2024年の開示において、気候関連戦略に関する大きな変更はありません。気候関連シナリオ分析の見直しは、中期経営計画の策定と同じサイクルで行うことを予定しています。

気候関連のリスク・機会の管理

気候関連シナリオ分析によって特定した重要なリスクと機会は、「経営課題行動計画モニタリング会議」で監視しています。本モニタリング会議は代表執行役社長兼CEO兼COOが主宰し、各カンパニーのプレジデントが財務指標と非財務指標のアクションプランの進捗と成果を報告しています。財務・非財務のインパクトを同時並行で経営層自らモニタリングする管理体制としています。気候関連のリスク・機会は非財務指標としてモニタリングし、目標に向けた活動の進捗状況や活動のレビューを行っています。気候関連を含む非財務の指標・目標の全体の進捗はサステナビリティ委員会に報告し、全執行役が全社横断的にレビューしました。

CEO: Chief Executive Officer COO: Chief Operations Officer

気候関連の指標・目標

各カンパニーがTCFD提言に沿って行った対面市場ごとのシナリオ分析結果を踏まえ、各カンパニーとその配下のグループ会社や部門がE-Plan2025のアクションプランに落とし込み、部門の目標と施策を設定して推進しています。サステナビリティ委員会は気候関連の戦略を含むサステナビリティ関連の指標と目標を当社の長期ビジョンであるE-Vision2030の5つのマテリアリティごとに整理し、全社横断的に長期ビジョンの達成に向けた活動の進捗を管理しています。

[GHG排出量の削減目標](#)について、Scope1,2では2018年度比で2030年に55%削減を掲げています。

バリューチェーンにおけるCO2削減目標は、[WBCSD が2023年3月に発行した、Guidance on Avoided Emissions](#)を踏まえて見直しを進めており、Scope 3の排出削減目標値をサステナビリティ委員会で審議しました。

Scope 1, 2, 3の削減目標について2024年5月にSBTイニシアチブへコミットメントレターを提出しており、2025年の目標認定を目指しています。

また、当社グループの2022年Scope1,2排出量（エネルギー起源排出量及びフロンによる排出（非エネルギー起源排出量を除く））の第三者保証を取得しました。2023年のGHG排出量についてはScope1,2,3を対象として第三者検証に着手しています。バリューチェーンにおける当社グループのGHG排出削減目標の改訂版を2024年内に開示する予定です。

主な開示項目		開示先
		2024
ガバナンス	気候関連のリスク及び機会の監督に責任を負うガバナンス機関	コーポレートガバナンスにリンク
戦略	企業の見通しに影響を与えると合理的に見込み得る気候関連のリスク及び機会	気候変動リスク・機会の抽出と評価にリンク
	気候関連のリスク及び機会が企業のビジネス・モデル及びバリュー・チェーンに与える現在の及び予想される影響	対面市場ごとのシナリオにリンク
	気候関連のリスク及び機会が、短期、中期及び長期にわたり、企業の財政状態、財務業績及びキャッシュ・フローに与えると予想される財務的影響	気候関連のリスク及び機会が財務計画に及ぼす影響にリンク
	気候関連の変化、進展及び不確実性に対する企業の戦略及びビジネス・モデルのレジリエンスを理解できるようにする情報の開示。	4℃・1.5~2℃シナリオの財務インパクトと主な算定式にリンク 気候関連のリスク及び機会を踏まえた戦略にリンク
リスク管理	気候関連リスクを特定し、評価するための企業のプロセス。	気候関連リスク管理にリンク
	気候関連リスクをマネジメントするための企業のプロセス。	
	気候関連のリスク及び機会を識別、評価、優先順位付け、モニタリングするためのプロセスが、企業の全体的なリスク管理プロセスと統合され、情報をもたらす程度及びどのように統合され、情報をもたらしているか。	リスクマネジメントにリンク
指標及び目標	Scope 1, 2, 3の排出	指標・目標にリンク ESGデータ集にリンク
	内部炭素価格を意思決定に適用しているかどうか。	気候関連のガバナンスに関する情報(2024年6月時点)にリンク
	気候関連の考慮事項が役員報酬に組み込まれているかどうか。	役員報酬にリンク

E-Plan2025（2023～2025年の中期経営計画）における主な気候関連事業戦略

（2024年6月時点。2023年開示以降の変更はありません。）



主要対面市場	カンパニー	主な製品	市場に提供する主な機能・価値	主要拠点*	E-Plan2025における気候関連の主な戦略
建築・産業設備市場	建築・産業	標準ポンプ、標準送風機、冷凍機、冷却塔など	<ul style="list-style-type: none"> ビル、マンション、様々な産業の工場等の揚水、送水、排水、送風、換気、排気、消火用水の揚水・送水 化学系や食品など清水以外の液体の移送 大規模施設の空調、産業プロセスの冷却、産業用設備の温調 など 	日本、中国、イタリア、ブラジル	<ul style="list-style-type: none"> 地政学リスクや各地域の規制、要求品質を踏まえた生産拠点とサプライチェーンマネジメントの見直し。 顧客の機器運転事情に応じた省エネルギー提案や設備の合理化。 脱炭素の需要に対する省エネルギー、環境負荷低減を切り口としたソリューション提供。
エネルギー市場	エネルギー	カスタムポンプ、コンプレッサ、タービン、クライオ製品*（ポンプ・エキスパンダー） *-250℃以下に及ぶ極低温流体を扱う製品など	<ul style="list-style-type: none"> LNG（液化天然ガス）関連施設、LNGの移送 石油精製、石油化学品製造など（ダウンストリーム）でのガス処理、ガス圧縮及びポンプによる液体圧送 CCS・CCUSプラントでのCO2圧入、移送 水素関連施設での液体水素、水素ガスの移送 アンモニア混焼火力発電所内でのアンモニア移送など 	日本、米国、インド、中国	<ul style="list-style-type: none"> 顧客と共に、脱炭素や持続可能な社会をリードするサステナビリティ分野のビジネスを確立する。 短～中期において、低炭素に資するLNG市場向け製品を提供する。 2025年以降の中長期を見据え、CCUS、アンモニア市場、水素、地熱発電などに向けた製品を開発する。
水インフラ市場	インフラ	ポンプ設備（上下水、河川、灌漑）、換気設備（道路）、曝気設備（下水）、電気設備など	<ul style="list-style-type: none"> 上下水施設の揚水、送水、排水 河川からの取水・排水、水害予防・抑制 道路の換気設備、排気、排煙など 	日本、ベトナム	<ul style="list-style-type: none"> インフラ施設の老朽化や水害の激甚化に対する国土強靱化計画への寄与。 東南アジアなど販売拠点のある国や地域の水害・干ばつ・灌漑需要に対して、日本国内で高評価を得ているエンジニアリング技術を海外拠点を通じて付加価値の高いポンプシステムとして提供する。
固形廃棄物処理市場	環境	一般廃棄物処理施設、産業廃棄物処理施設、木質バイオマス発電施設など	<ul style="list-style-type: none"> 固形廃棄物の中間処理（焼却含む） LCAに基づく資源循環ソリューション提供 当社グループや自治体への低炭素電気の提供 焼却灰の資源化 など 	日本、中国	<ul style="list-style-type: none"> 世界がサーキュラーエコノミー、脱炭素に向かい、焼却される廃棄物は年々減少することを見据え、廃プラスチックからガスやオイルを回収し、石油や石油化学の原料に資源循環するケミカルリサイクルのスキームを構築する。
半導体製造市場	精密・電子	真空ポンプ、CMP、排ガス処理装置など	半導体製造プロセスにおいて <ul style="list-style-type: none"> クリーンな真空環境の提供 超高精度にウェーハを表面加工 CO2の数千倍以上の温暖化係数を有するPFCガス（パーフルオロカーボン）の無害化など 	日本、台湾、中国、韓国、米国、欧州、シンガポール、マレーシア	<ul style="list-style-type: none"> 顧客の半導体製造プロセスにおける脱炭素に寄与する。 半導体気候関連コンソーシアム設立メンバーとして半導体製造における脱炭素を先導する。 EUV露光装置向け排気システムを進化させ、GHG排出の更なる低減を目指す。

*拠点規模の大きさ順に記載しています。